

大学生アスリートの自己肯定感に関する研究

学生氏名 岸本 怜

指導教員 教員氏名 肥前 洋一

研究背景

自尊感情は精神的健康や社会的適応と密接に関連する重要な心理特性であり、学業と競技活動を両立する大学生アスリートにとって、その維持・形成は大きな課題である。近年、スポーツ活動と自尊感情の関連に加え、団体競技と個人競技という競技特性の違いが自尊感情に及ぼす影響が注目されている。しかし、日本の大学生アスリートを対象とした実証研究は十分に蓄積されていない。

研究目的

本研究の目的は、大学生アスリートを対象として、団体競技と個人競技における自尊感情の差を明らかにするとともに、個人属性が自尊感情に及ぼす影響を検討することである。

研究方法

高知工科大学に所属する大学生アスリート 88 名（個人競技 42 名、団体競技 46 名）を対象に、オンライン質問調査を実施した。自尊感情の測定にはローゼンバーグ自尊感情尺度（RSES 日本語版）を用いた。分析には最小二乗法による回帰分析を用い、競技種別を説明変数とした単回帰および、性別、年齢、練習頻度、競技歴、優勝経験などを加えた重回帰を行った。

分析結果

競技種別のみを投入した単回帰分析では、自尊感情との有意な関連は認められなかった。また、すべての個人属性を投入した重回帰分析においても、いずれの説明変数も自尊感情に対して統計的に有意な影響を示さず、モデル全体の説明力も低水準にとどまった。

考察・結論

本研究の結果から、大学生アスリートの自尊感情は、競技種別や基本的な個人属性のみでは十分に説明できないことが示唆された。先行研究で指摘されてきた競技種別による差は、日本の大学スポーツ文化においては必ずしも明確に現れない可能性がある。今後は、競技に対する主観的評価や社会的支持など、心理的・社会的要因を含めた包括的な検討が求められる。